

## P12 九州大学病院小児歯科初診患者の実態調査

An investigation on the patients records of the first visit in pediatric dental clinic of Kyushu University  
Dental Hospital

○中村由紀<sup>1)</sup>、岩本 勉<sup>2)</sup>、中本由希<sup>2)</sup>、稲葉麻衣子<sup>2)</sup>、藤田裕美子<sup>2)</sup>  
増田啓次<sup>2)</sup>、山口 登<sup>1)</sup>、野中和明<sup>1)</sup>  
Yuki Nakamura<sup>1)</sup>, Tsutomu Iwamoto<sup>2)</sup>, Yuki Nakamoto<sup>2)</sup>, Maiko Inaba<sup>2)</sup>  
Yumiko Fujita<sup>2)</sup>, Keiji Masuda<sup>2)</sup>, Noboru Yamaguchi<sup>1)</sup>, Kazuaki Nonaka<sup>1)</sup>

九州大学大学院歯学研究院 口腔保健推進学講座 小児口腔医学分野<sup>1)</sup>  
九州大学大学病院 小児歯科<sup>2)</sup>  
Section of Pediatric Dentistry, Kyushu University Faculty of Dental Science<sup>1)</sup>  
Pediatric Dental Clinic, Kyushu University Hospital<sup>2)</sup>

〔目的〕九州大学病院小児歯科は1979年4月に開設以来30年間、主に新生児から青年を対象に口腔疾患の治療と予防に努めてきた。近年の少子化の加速や小児を取り巻く環境の多様化に対し、小児歯科医療への要望も著しく変化していると思われる。この度、1998年4月から2008年3月までの10年間に来院した4576名の初診患者の実態を調査し、過去に（1979年4月から1993年3月）当科にて実施した同様の調査との比較検討を行った。

〔調査対象ならびに方法〕調査対象は1998年4月から2008年3月までの過去10年間に本院小児歯科外来を受診した初診患者男児2407名、女児2169名の計4576名である。調査項目は、性別、年齢、居住地域、主訴、紹介の有無、全身疾患や発達障害の有無、当科受診前の歯科受診経験の有無とし、診療録および問診票を用いた。

〔結果および考察〕10年間の初診患者総数は4576名で、前回調査の1979年から1988年の10年間（4479名）と比較して変化を認めなかった。初診時年齢は1歳が最も多く全体の10.4%を占めており、前回調査と比較すると低年齢化してきていた。主訴の内訳からも前回の調査と比較すると小児の口腔を取り巻く環境の変化がうかがえた。我々はその変化している患者の要望に応え、よりの確な対応に努めていく必要があると認識した。